

明治時代の
大ベストセラーだよ

『学問のすすめ』が最初に出版されたのは、いまから約150年前の1872(明治5)年。作者は福沢諭吉という人で、諭吉が友だちに送った手紙が元となっているよ。「勉強のたいせつさ」について書かれたこの手紙は、友だちのあいだで大好評。そのため、パンフレットのような形で出版することにしたんだ。

わかりやすい文章で書かれたこの『学問のすすめ』は評判となり、その後、5年間にわたって16の続編が出されたんだ。そして1冊の本にまとめられたよ。この本は340万部も売れ、明治時代のベストセラーになったんだ。



『学問のすすめ』はもう読んだかね？

もちろんよ！

新しい時代を生きぬくための
強い思いが込められているよ

『学問のすすめ』が出版されたのは、江戸から明治に時代が変わったばかりのとき。政治が変わり、学校や軍隊などの制度ができて、鉄道や郵便などの整備が進んだ時代だよ。着ているものが着物から洋服に変わりはじめるなど、生活も大きく変化したころなんだ。

この時代の日本は、国の制度も、技術や学問も、西洋の国ぐにとくらべておくれていたよ。また、急激に生活が変わっていくなかで、多くの人びとはとまどっていたんだ。諭吉は、このたいへんな時代を生きぬくためには、1人ひとりが社会に役立つ勉強をして、自立することがたいせつだと考え、そのメッセージを『学問のすすめ』のなかに込めたんだよ。





勉強しただけで満足しない。毎日の生活に役立てよう。

原文

専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。

生活のなかで役立てる

学校では毎日いろいろなことを勉強しているよね。習いごとに通って、学んでいる人もいるはず。そうして学んだことを、きみはどうしているかな？ そのままにしているはもったいない！ 『学問のすすめ』は、「学んだことを、自分の生活に役立てることがだいじだ」といつているよ。たとえば、英語を習ったのなら、思いきって外国の人に話しかけてみよう。通じたら自信になるし、きみの世界が大きく広がる。その体験は本当の生きた力になるんだ。



**古い・病・死の苦しみを知り、
大きなショックを受けてしまうよ**

ブツダは仏教という教えをはじめた人だよ。どんな人物か、じつは正確なことはよくわかっていないけれど、その一生は仏教を信じる人たちによって、語り伝えられているよ。

ブツダの本名は、ゴータマ・シツダールタ。いまから約2500年前、インド北部にあった国の王子として生まれたよ。とても恵まれた生活をおくっていたけれど、あるとき、年老いて弱った人・病気で苦しんでいる人・死んでしまった人、たて続けに出会った。そして古い・病・死の苦しみからは、だれも逃げられないと知って、大きなショックを受けてしまうんだよ。



悟りもひらいて「ブツダ」と呼ばれるようになるよ

シツダールタは29歳のときに地位も家族も捨て、生きることの苦しみを乗りこえるために修行の旅へ出たよ。そして6年ものきびしい修行をつんだ結果、修行でもっともだいたいなのは、「こころと向き合うことだと気づき、しずかに自分のこころを見つめはじめたんだ。」

この修行のすえ、シツダールタは35歳のときに悟りをひらくよ。つまり、人はなぜ苦しむのか、自分とはなにか、それらすべての答えを見つけたんだ。悟りをひらいたシツダールタは弟子をもち、「悟りをひらいた人」という意味の「ブツダ」と呼ばれるようになるよ。ブツダは80歳で亡くなるけれど、弟子たちによって、その教えは世界中に広まったんだ。

勝つためにまずやるべきことは？



まずは相手のことより
自分のこと。
負けないための準備を
しっかりしよう。

原文

昔の善く戦う者は、先ず勝つべからざるを為して、
以て敵の勝つべきを待つ。勝つべからざるは
己に在るも、勝つべきは敵にあり。

自分のできる

ことをやる

「孫子の兵法」は、勝つための方法や考え方をいろいろ教えてくれるけれど、最初にやらなければいけないことは「負けないための準備」といつているよ。負けないための準備と聞くと、きみは弱気なイメージをもつかもしれないけれど、そんなことはないんだ。なぜなら、相手の状態を変えることはとてもむずかしいけれど、負けないための準備なら、いますぐ自分だけでできるからね。勝つ前の前は、まず自分にできることをしっかりやることだ。だいじなんだ。



そんなことしてても
意味ないわよ！

まずやるべきことは

負けないための準備！！

なわとびの

ワザをみがく！

かぜをひかない

ようにしっかり

健康管理！

自分にできる

ことに集中よ！！

なるほど！！

説得力がすごい！！

すてきな人生にしたい!



自分を成長させるのは、他人ではなく自分自身。

原文

「天は自ら助くる者を助く」
 ……「自分自身を助ける」という自助の精神は、
 本当の意味での個人のあらゆる成長の基盤です。

自分でがんばると 覚悟する

人生はやさしいことばかりじゃない、困難なときだってあるもの。そんなとき、いつでもまわりの人が助けてくれるとは限らないよね。だから『自助論』は、「ほかの人は頼りにしないで、自分自身を頼りにしよう」といっているよ。それに、ほかの人を頼ってばかりいては、自分が成長するのをむずかしくしてしまう。たいせつなのは、まずは自分でがんばると覚悟すること。少しずつでも自分の力で努力を重ねていけば、大きく成長することができるんだ。



どうすればお金をもうけられるの？

ただ正しく生きることこそ
商売のきほん

うそをいったり
ごまかしたりしない。
そんな気もちが
お金をもうけるための
きほんだよ。



原文

……士魂にして商才がなければならぬ、……
商才は道徳と離るべからざるものとすれば、
道徳の書たる論語によって養えるわけである、……

お金をもうけるには、ど
うすればいいのだろうか？ こ
んな質問に『論語と算盤』は、
「武士のようなところをもつ
て商売しよう」と答えている
よ。武士のようなところと
いうのは、うそをつかないこ
ころのこと。そんなところ
をもっていけば、お客さんも
安心して買いかいものに来てく
れるし、仕事仲間にも信頼し
てもらえるよ。人をだまし
たり、ごまかしたりしてお金
をもうけても、そこに信頼は
生まれぬから長続きしな
い。お金もうけは信頼こそ
がだいじなんだ。



幸せが長続きしない……



もらった幸せは
その場かぎり。
自分でつくった
幸せは長もちする。

原文

……自分でつくる幸福というのは
けっしてたまさない。

自分自身の努力で
幸せをつくり出す

自分でつくった幸せと、他人からもらった幸せ。同じ幸せのように思えるけれど、ぜんぜんちがうものだよ。他人からもらった幸せは、すぐに消えてしまうんだ。いっぽうで、自分でつくった幸せは長続きするよ。なぜなら、自分で行動して手に入れた幸せには、努力の跡が残っているから。そこには、きみが自分でつかんだ、「幸せになるための方法」がかくれているよ。だから、もし幸せがなくなっても、つぎの幸せをつくり出すことができるとだ。



どうすれば成果をあげられるの？



成果はいつも「強み」から生まれるよ。

原文

何事かを成し遂げられるのは、強みによってである。弱みによって何かを行なうことはできない。

自分の強みを知っていかす

「算数が得意だ！」「料理ならだれにも負けない！」—そんなふうに見えるもの、きつときみにもあるはず。それがきみの強みだよ。ドロッカーによれば、成果はいつも強みから生まれるんだって。人は得意なことや自信のあることだと、やる気が出て前向きに努力できたり、いろんなアイデアが浮かんできたりするもの。だから、自分の強みをしっかり使うことが、成果をあげる近道なんだ。強みを見つけたときは、自分にできることだけに注目しよう。



迷ってばかりで決められない…



だいじなのは、
自分で決めること。
どっちつかずの
態度では、
なにもうまく
いかないよ。

原文

決断力のない君主は、
当面の危機を回避しようとするあまり、
多くのばあい中立の道を選んで、破滅へと向う。

自分で決める
勇気をもつ

リーダーに必要なものが
まとめられた『君主論』。な
によりだいじだといってい
るのは「自分で決めること」
だよ。きみはこれからの人
生で、数えきれないほどなに
かを決める場面に出会うこ
とになる。そのなかには、す
ぐに決められることもあれ
ば、1週間悩んでも決めら
れないことがあるかもしれ
ない。だけど、迷いや不安が
あったとしても、しっかり自
分で決めることが重要な
だ。決める力がないと、いつ
も中途半端な態度で失敗し
てしまうことになるよ。

